

コロンビア月例報告（7月分）

外交・内政状況

2015年8月

在コロンビア日本国大使館

E-mail : info@ba.mofa.go.jp

I 概要

【内政】

- 1～5日 世論調査
- 8日 FARCによる一方的停戦宣言
- 12日 和平交渉の加速及び紛争縮減の合意
- 20日 FARCによる一方的停戦期間の延長
- 20日 国会開会
- 23日 統一地方選挙立候補登録締切
- 25日 国軍によるFARCへの空爆停止

【外交】

- 1～2日 サントス大統領ほかの第10回太平洋同盟首脳会合出席（於：ペルー）
- 6日 ルトノ・インドネシア外相の当国訪問
- 23日 ピンソン新駐米大使の就任

II 本文

【内政】

1 世論調査

1～5日にかけて実施されたダテスコ社世論調査によれば、サントス大統領支持率は22%、不支持率は73%となった。

2 和平交渉

（1）FARCによる一方的停戦

8日、FARC（コロンビア革命軍）は7月20日より1ヶ月間一方的停戦をする旨発表した。

（2）交渉の加速及び紛争縮減

12日、政府及びFARCはハバナにおいて、和平交渉の加速及び紛争縮減の合意に関する共同声明を発表した。同声明は、双方向停戦の具体的詳細につき迅速に合意すること、FARCは一方的停戦を維持すること、政府も軍事行動の縮減を実行すること、4か月後に本件評価を実施すること等を規定した。

（3）FARCによる一方的停戦期間の延長

20日、FARCは一方的停戦期間を11月20日まで延長する旨発表した。

(4) 政府による空爆の停止

25日、サントス大統領は国軍に対し、FARC野営地への空爆を停止するよう命じた
(注：地上攻撃は完全に停止した訳ではない)。

3 国会開会

20日の独立記念日に国会が開会し、上院議長及び下院議長が選出された。サントス大統領は和平交渉反対派(ウリベ前大統領派)を非難しつつ、和平達成への決意を述べる旨の開会演説を実施した。

上院議長・下院議長は以下のとおり選出された。

(1) 上院議長(国会議長)

ルイス・フェルナンド・ベラスコ・チャベス(自由党, カウカ県)

(Luis Fernando VELASCO Chaves)

(2) 下院議長

アルフレド・ラファエル・デルケ・スレタ(国民統一党, グアヒラ県)

(Alfredo Rafael DELUQUE Zuleta)

4 統一地方選挙立候補登録締切

23日、統一地方選挙の立候補登録受付が締め切られた。17~21日に実施されたダテスコ社の世論調査によれば、ボゴタ市長選の支持率はパルド元労働相(国民統一党)22.7%、ペニャロサ元ボゴタ市長(無所属)21.7%、クララ・ロペスPDA党首(PDA党)20.4%、フランシスコ・サントス元副大統領(民主中道運動)8.1%となった。

【外交】

1 太平洋同盟首脳会合等

(1) 第21回太平洋同盟高級実務者会合

1日、ペルーのパラカスで第21回太平洋同盟高級実務者会合が開催され、エチェベリ外務次官(マルチ担当)及びサラスティ商工観光次官が参加した。また、第1回日・太平洋同盟高級事務レベル会合も開催された。

(2) 第14回太平洋同盟閣僚会合

2日、オルギン外相及びアルバレス=コレア商工・観光相が、同地で開催された第14回太平洋同盟閣僚会合に出席した。同会合において、10カ国のオブザーバー国入りの申請が審査されたほか、32カ国のオブザーバー国との協議が実施され、特にイノベーション、教育、貿易促進、競争力強化の分野における協力の可能性につき協議された。

(3) 第10回太平洋同盟首脳会合

2日、サントス大統領は、同地で開催された第10回太平洋同盟首脳会合に出席したが、ボゴタにおいてテロ事件が発生したため、同日夜、予定を切り上げてボゴタに戻った。そのため、3日の日程についてはオルギン外相が代理を務めた。

(4) 枠組協定の発効

20日、太平洋同盟枠組協定が発効した。

2 ルトノ・インドネシア外相の当国訪問

6日、ルトノ・インドネシア外相が当国を訪問し、オルギン外相と会談した。同会談においてルトノ外相はオルギン外相に対し、コロンビアの紛争後協力のための専門家グループを紹介した。同専門家グループはインドネシアにおけるアチェ・スマトラ民族解放戦線との和平交渉時の関係者であり、元閣僚も含まれる。

3 ピンソン新駐米大使の就任

23日、大統領府においてピンソン新駐米大使（前国防相）の就任式が実施された。

(了)